



沼田での生活 人とのつながり温かい

利根沼田の風景などをテーマに描いた自然や生き物、少女など鮮やかな色彩で詩情豊かな作風が人気の木版画。「懐かしい故郷には思い出がたくさん。自分の幼な心によき時代を作品に表現しています」

旧月夜野町出身で沼田女子高校を卒業した木版画家・画家の池田実穂さんは、東京学芸大学卒業、同大学院修了後、04年にイタリアに留学。大理石の採石が有名で多くの芸術家が活動する同国のカッラーラを拠点に活躍していました。

くために帰郷。沼田にアトリエを構え、10月には、自然との共存や子どもたちの明るい未来をテーマにした池田さんの作品が市政と結びつくことから、市は「ヌマタ・アート・アンバサダー」に委嘱しました。

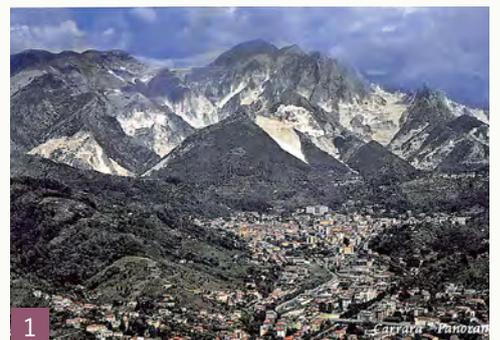
アンバサダー最初の活動となる企画展『TERRACE美術回廊 池田実穂「アペルタ展」』が、テラス沼田で開かれています。市庁舎の通路をギャラリーに見立てて作品を展示し、ラリー形式で建物内を散策しながら鑑賞を楽しめます。池田さんの作品には少女が多く登場。自身の

メッセージ性を投影し、髪の毛やスカートなどで情感を表現しているといっています。「どの女性も少女時代を経験しています。言葉では伝えきれない思いを木版や絵で表すことで、共感したり何かを感じてもらえたりすれば」と話します。幅広い年代に受け入れやすい作風も特長。「幸せな気持ちになり、明日への希望を見い出してほしい」と笑顔を浮かべます。

高校卒業以来の利根沼田での生活は、人とのつながりの強さを感じ、版画の材料をそろえるにも、沼田の知人に紹介してもらったという池田さん。インターネットでは知り得ない地域の情報があり、人と直に付き合えるのがあります。

「殺伐とした今の時代、生きるためには人との関係が大切。ときには煩わしさもありますが、そういった中にこそ温かみを感じられます」と話します。毎年1、2回、市内や県内で開く個展には、古くからの知人や同級生も訪れ、久しぶりの再会を喜び合い、制作活動への応援に感謝しているといいます。

今後はさまざまな媒体やメディアを通して、日本とヨーロッパの双方で作品を大きく展開することを目指します。アンバサダーとしては、市民が美術や文化に目を向けてもらえる一助となりたいとし「深みある心の豊かさを感じられるような制作に励みたい」と意気込みます。



1. 大理石でできたカッラーラの山並み 2. 彫刻家で夫の高橋健二さん(右)とイタリア・マンツァで合同個展 3. 木版画『HOPE』の木版